



福井県鯖江市 石本 豊昭さん

実家の農業を引き継ぎ、会社勤めの頃から半農半Xの生活をしていた石本さん。現在は、田んぼ1町3反(130a)、畑3畝(3a)と、NPOでの活動との半農生活を送っています。そんな石本さんの農家暮らしを取材してきました。

●農家さんは勉強熱心

私が『地球村』に出会ったのは1996年です。当時、福井で高木代表の環境のシリーズ講演がありまして、地球温暖化についての講演会を聴いたのがきっかけでした。

私は実家が農家だったので、子どもの頃から田畑を手伝っていました。両親が農業をやっていると、子どもも手伝って当たり前でしたし、田植えなどの忙しいときは猫の手も借りたいですから、農家の倅として農業に関わっていました。子どもの頃は、まだ電気を使わない機械で農業をやっていた時代でしたね。

昔は作物を農協に出していたんですが、農薬や肥料を指定されたりと、農薬などを大量に使わなくてはならず、父が身体の不調を訴えるようになっていったんで

す。農薬や化学肥料を使っていると身体に凄い負担になります。劇薬扱いのものもある為、ゴツイマスクにゴム手袋をしていました。食物を扱う風景じゃない、そんなことを考えていたら、少しずつ有機農法の情報などが世間に出始めてきました。その頃から環境問題にも興味を持ったんです。農家の仲間内でも、農薬まみれの農業に危機感を持った人が多かったもので、そういう人が集まって情報を共有したりする中で、環境講演会のことを知り、『地球村』に出会いました。それ以来、本を読んだり、講演会に参加したりして、徐々に『地球村』との関わりが深くなっていきました。

●今も昔も半農半X

以前は会社勤めをしながら農業をやっていました。その他にも『地球村』の活動や、他のNPOのボランティアなどの活動を始めて、だんだん時間をこちらに割いていくようになり、ついに5年前に会社をやめました。

現在は、NPO法人「小さな種・こころ」の仕事をしています。精神や知的な障がいを持った若者を社会復帰させようという活動をしていて、3年前から農園を作り、そこで障がい者を中心としたスタッフが働いています。耕作放棄された農地を有効利用し、地産地消をベースに野菜を栽培しています。私は農園長をしています。

昔から半農半Xでしたが、以前はX(=

会社)中心の生活でしたが、現在はX＝自分の時間、の半農半Xです。農業の方も無理して大量に作る必要も無いですし、その分ボランティアなどに時間を使うことができます。収入は減りましたが、毎日楽しい生活が送れています。



鯖江の田園風景

●農で価値観の転換を

人が自分で食べ物を育て作る、それが日本人本来の生き方だと思えます。農地が取れない地域は無理だとしても、自分の周りに田畑がある人は、自分で作ってほしいと思います。お金の為だけに働いて、他の職業にばかり人が増えていって、農業を疎かにするのはおかしいです。人間として生活する基本というか、原点が忘れ去られている気がします。昔は、里の人がお米や野菜を作り、海岸部の人が海産物を取り、多くの人が自給自足の生活をしていました。余った分をお互いに交換することで、暮らしが成り立っていました。ところが今は、わざわざ遠い海外から買って運んできています。それは非常におかしいと思います。人間は自分の手足を使ってできることがあるのに、それをせずに頭だけ、目だけ、指だけで生きていることは、不自然です。

半農半Xというのは、人間の本来の生活を的確に表した言葉です。まず農業をやった上で、自分の好きなことをするというのが、人間にあった生活なのだと思います。小規模でもいいから、土に触れる事を体験すれば、人々の考え方も変わるのではないのでしょうか。農業体験に来る子どもたちも、凄く生き生きとしていて、食事をする時の感覚が変わったと言っていました。それまでは「この野菜は嫌い」、「こんな食べられない」とか思っていたのが、自分で育てた野菜のことが頭に浮かんで、美味しく感じられるようになったと感想をいただきました。

お米は八十八回の苦勞でできていると言いますが、本当にそれ位苦勞した末にできあがるものなんです。今は機械化され、手間をかなり省略できてしまう時代になった為、便利になった分ありがたみが失われてしまいました。土に触れ、食べ物のありがたみや、感謝することを自然と学べる、これは今の社会で最も重要な教育だと思います。農を経験することで、人々に助け合いの心など、日本人の原点を取り戻してほしいと思います。農を体験して自分を変えろと言う事を、発信していきたいです。皆さんも農を通じて、自分の価値観を見直してみませんか。



元気な野菜に農業は不要です